

授業科目名： 情報ネットワーク	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 陳春祥 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報通信ネットワーク		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p><テーマ> コンピュータネットワークの基礎</p> <p><到達目標></p> <p>①ネットワークの階層的アーキテクチャーについて説明できる</p> <p>②TCP/IPの仕組みについて説明できる</p> <p>③IPパケットの構成ヘッダー情報について理解できる</p> <p>④パケットリレー・ルーティングについて説明できる</p> <p>⑤ネットワーク上で展開される多彩なサービスを理解できる</p> <p>⑥ネットワークの基礎知識を活かし、ネットワークの利活用ができる</p>			
<p>授業の概要</p> <p>情報ネットワーク（とりわけインターネット）の概念、アーキテクチャのレイヤーモデル、接続原理及び各種のアプリケーションについて体系的に講義し、コンピュータネットワークに関する概念、原理などの基礎知識について理解する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：情報処理の技術と情報通信の技術概論</p> <p>第2回：情報ネットワークの歴史について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電話網の歴史 ・回線交換とパケット交換の概説 ・コンピュータネットワークの歴史 <p>第3回：情報ネットワークのプロトコル ・プロトコルの概念</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネットワークのアーキテクチャ、階層モデル ・階層化の利点・各階層の機能 ・階層間データの流れ・同一階層の関係 ・プロトコルの標準化 <p>第4回：データリンク層プロトコル（その1） ・LANプロトコル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CSMA/CDについて：バス型ネットワーク、LANフレームの構成、 ・CSMA/CDの基本動作、フレームの衝突と衝突の回避 <p>第5回：データリンク層プロトコル（その2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無線LANについて：無線LANプロトコル(IEEE 802DCF) 、 ・無線LANキャリアセンス、フレーム衝突回避のメカニズムなど <p>第6回：データ伝送方式、伝送の同期、多重化技術：時分割多重と周波数分割多重、誤り制御：誤り制御方式、誤りの検出と訂正などについて学習する。</p> <p>第7回：ネットワーク層プロトコル（その1）</p>			

・IPアドレス、サブネットの概念、及びサブネットマスク ・IPデータグラムのフォーマット

第8回：ネットワーク層プロトコル（その2） ・データグラム（IPパケット）の転送

・ゲートウェイ、ルータおよび経路制御（ルーティング）

・IPデータグラムのフラグメンテーション

第9回：トランスポート層プロトコル（その1） TCPセグメントのフォーマット

・ポート番号とプロセス間通信 ・シーケンス番号と応答確認

・TCPコネクションの確立と切断

第10回：トランスポート層プロトコル（その2） UDPについて

・UDPのフォーマット、コネクションレス型通信 ・UDPとTCPの違い

TCPのトラフィック制御

・TCPでの輻輳（ふくそう）制御 ・TCPでのフロー制御 ・TCPでの誤り制御

第11回：アプリケーション層プロトコル（その1）

・インターネットの主なサービス

・ドメインネームシステム（DNS）：ドメイン名とURL、アドレス解決

第12回：アプリケーション層プロトコル（その2）

・電子メール（SMTP）：メール配送の仕組み、SMTPの仕様

・Webアクセス（HTTPおよびHTTPS） ・ファイル転送（FTP）など

第13回：アプリケーション層プロトコルの実際

・サブネットマスク、サブネット化とアドレスの集約 ・ルータの構造とベストエフォート

第14回：IPネットワークの限界とそれらを補う技術：アドレス変換（NAT）、IPSec、VPNなど

第15回：IPv6ネットワークへの招待

定期試験

テキスト

池田 博昌、山本 幹：「情報ネットワーク工学」、オーム社

参考書・参考資料等

松下温、重野寛、屋代智之：「コンピュータネットワーク」、オーム社。

関根 勤：「ネットワークの考え方」、オーム社。

学生に対する評価

総合評価：100点（＝期末試験60%＋宿題等40%）

授業科目名： 情報ネットワーク実 験	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 陳春祥 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報通信ネットワーク		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p><テーマ> IPネットワークにおける実践力の育成</p> <p><到達目標></p> <p>① IPパケットのバケツリレーについて説明できる。</p> <p>②ネットワークアーキテクチャについて階層構造を説明できる。</p> <p>③IPネットワークに情報機器の接続設定ができる。</p> <p>④ルーティングテーブルの説明、運用ができる。</p> <p>⑤初歩的なネットワーク障害の究明、診断、回復などができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本実験では、「情報ネットワーク」と相俟って、ネットワークに関する実践力を身につけることを目的としている。まず、TCP/IPベースのネットワーク設計、構築から着手し、ネットワークへの接続、ネットワークアドレス管理、経路制御などの実験を通して、各種のソフトウェア・ハードウェアの運用・構築に必要な実技を学ぶ。更にインターネットで行なわれている代表的なサービスを取り上げ、実験を通じてネットワークの実践力を高める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業内容のガイダンス、TCP/IPの仕組みについておさらい</p> <p>第2回：実験環境の構築、システム管理者と一般利用者における権限の違いとユーザー登録、システム管理者としての注意事項</p> <p>第3回：IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ及びルーティングについて、実際に設定（正しい設定例、間違った設定例など）を行い、それぞれの働きを理解する。</p> <p>第4回：IPアドレスとMACアドレスの関係。MACアドレスとIPアドレスのマッピング、ARPによるアドレス解決の仕組み、ARPのダイナミックとスタティックキャッシュの働き。</p> <p>第5回：IPパケットをキャプチャして解析し、ネットワークの階層構造について学習する。パケットのカプセル化、アプリケーションヘッダ、TCP/UDPヘッダ及びIPヘッダ、TCPコネクションの確立、切断について勉強する。</p> <p>第6回：LANケーブルの自作（その1）：LANケーブルの種類、ストレートケーブルとクロスケーブルの違いを理解するとともに、ツイストペアケーブルのノイズ（低減）対策の工夫を理解する。</p> <p>第7回：LANケーブルの自作（その2）：LANケーブル（UTP RJ-45）（Cat5e以上）を自作する。</p> <p>第8回：ネットワーク分割設計（その1）：小規模（3～4セグメント）のネットワークを設計する。</p>			

具体的には割り当てられたIPアドレスブロックをサブネットマスクを利用して、複数のセグメントに分割する技法を勉強する。

第9回：ネットワーク分割設計（その2）：前回の内容の応用。具体的には、サブネットマスクを利用して、割り当てられたIPアドレスブロックを分割し、各セグメントに必要なアドレス体系、サブネットマスクそしてブロードキャストアドレスを設計する。

第10回：ネットワークサービス演習：インターネットの代表的なサービス：メールサーバ、DNSサーバおよびWebサーバについての動作

第11回：Windowsネットワーク（その1）：ネットワーク経由でのファイル操作、プリンタなどの周辺機器の共有、ワークグループなどのネットワークの関連操作

第12回：Windowsネットワーク（その2）：ファイル共有、共有アクセス権とNTFSアクセス権、共有アクセス権の設定など

第13回：ファイアウォールとアドレス変換について勉強する。具体的にはパケットヘッダをチェックするパケットフィルタリング型FWの原理、INとOUTパケットの処理、Windows FWを用いた演習

第14回：アドレス変換（NAT/NAPT）について

第15回：ネットワーク関係ツール: ping、ifconfig (Windowsでは、ipconfig)、netstat、tracert (tracert)、arpの応用など

テキスト

テキストの指定はないが、授業前にプリント(またはPDFファイル)を配布する。

参考書・参考資料等

参考文献等は授業中適宜に指定する。

学生に対する評価

総合評価：100点（＝期末レポート60%＋宿題等40%）

授業科目名： モバイルネットワーク システム	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 重安哲也 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報通信ネットワーク		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本授業は、携帯型情報端末を使用した移動を伴う環境下における情報処理技術について取り扱う。</p> <p>具体的には、無線通信機能を有する可搬型情報端末によるネットワーク接続や、情報発信・共有・取得などのために用いられる技術について理解する。</p> <p>到達目標</p> <p>知識・技能の観点</p> <p>①代表的なモバイルネットワークである携帯電話サービスの遠隔端末館での回線接続の仕組みを説明できる</p> <p>②電波伝搬の基本的特性を理解し、フェージング、シャドーイングなどの発生理由の概要を説明できる</p> <p>思考力・判断力・表現力の観点</p> <p>③モバイルネットワーク全般の技術を理解し、これらの専門的知識をもとにしたモバイルネットワークによる新たなサービス創出について検討できる</p>			
<p>授業の概要</p> <p>携帯型情報端末を使用した情報処理技術について取り扱う。</p> <p>具体的には、モバイルネットワークの概要の理解に続き、モバイル端末により構成されるコンピュータネットワークの特徴や、無線通信に欠かせない、電波伝搬の特徴、さらには、携帯電話システムや無線LANシステムの構成について学ぶことで、それぞれの技術的特徴の違いや、新たなモバイルシステムを開発する際に、どのような技術や手法を組み込めば良いかについて理解する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：まず、授業計画の説明、成績評価についてガイダンスする。次に、モバイルネットワークシステムの概要について学ぶ。具体的には、携帯電話のおおまかな仕組みやモバイルネットワーク発展の背景などを学ぶ</p> <p>第2回：コンピュータネットワークの基礎を学ぶ。具体的には、TCP/IPなど従来のコンピュータネットワークの技術ならびに、モバイル環境下にこれらの技術を適用した場合の特徴などを学ぶ</p> <p>第3回：モバイル端末について学ぶ。具体的には、モバイル環境下における、従来の固定通信環境下</p>			

とは、異なる制約などについて学ぶ。

第4回：電波伝搬特性について学ぶ。モバイル端末は、その多くが電波通信によって情報を伝達するが、その媒体となる電波の物理的な伝搬特性を学ぶ。

第5回：携帯電話無線アクセスについて学ぶ。具体的には、携帯電話が基地局とどのような無線方式で通信を行なっているかについて学ぶ。

第6回：携帯電話システム技術。携帯電話のシステムに組み込まれる主要技術について学ぶ。

第7回：無線LANシステムについて学ぶ。具体的には、無線LANの無線通信には、携帯電話とは異なる思想の技術が採用されているが、そのことによる通信特性の違いや、システムとしての特徴の違いなどについて学ぶ。

第8回：無線LANサービスについて学ぶ。具体的には、無線LANを使用して展開されるサービスについて学び、同サービスの課題や、特徴などを理解する

第9回：移動支援技術について学ぶ。具体的には、モバイルネットワークシステムを実現するために、端末の移動に対応するための諸技術について学ぶ。

第10回：無線マルチホップネットワークについて学ぶ。具体的には、無線区間が1区間のみではなく、無線の多段中継接続によって構成されるモバイルネットワークにおける諸技術について学ぶ。

第11回：無線PANについて学ぶ。具体的には、BluetoothやZigBeeなど、近距離無線通信規格について学ぶ。

第12回：センサネットワークについて学ぶ。具体的には、無線通信機能を有するセンサによって構成されるネットワークでの諸技術や、現在の技術的課題について学ぶ。

第13回：RFIDについて学ぶ。具体的には、非接触カードなどに採用されるRFIDの概要や、RFIDを利用したサービス、アプリケーションなどについて学ぶ。

第14回：位置推定について学ぶ。具体的には、移動端末などが自身の所在などを推定する技術などを学ぶ。

第15回：モバイルアプリケーションについて学ぶ。具体的には、モバイルネットワークシステムとして、現在、社会に利活用されている諸々のアプリケーションについて学ぶ。

定期試験

テキスト

授業担当者が作成した授業テキストを配布する

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

試験（60%）（到達目標①，②），演習課題（40%）（到達目標（到達目標①，②，③）の割合で評価を行う。

授業科目名： 情報セキュリティ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 佐々木宣介 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報通信ネットワーク		
授業のテーマ及び到達目標 近年、ますます重要性を増している「情報セキュリティ」に関する基本的事項について、技術面、管理運用面等の幅広い視点からの理解を深めることが目標である。			
授業の概要 情報セキュリティに関する基本的な内容を技術的側面とマネジメント的側面の両面から幅広く解説する。技術的内容として、さまざまなセキュリティ上の攻撃手法とその対策に必要な技術を学習し、マネジメント的内容としては、組織における情報セキュリティ確保のためのISMS（Information Security Management System）の考え方を学習する。			
授業計画 第1回：講義の概要や情報セキュリティに関する概説を行う。また、情報セキュリティの基本的な考え方や、セキュリティ事故の典型的な事例について簡単に紹介する。 第2回：情報セキュリティマネジメントについて解説する。PDCAサイクルのもと、情報資産に対する脅威となるリスクを分析し、対策を行っていく枠組みを概説する。 第3回：情報セキュリティを確保しながらシステムを運用していくために必要な考え方について解説を行う。ユーザに対して必要最小限の権限を与えるアクセス制御の考え方、物理的セキュリティ対策や人的セキュリティ対策などについて解説する。 第4回：ネットワークインフラに関わるセキュリティ技術について解説する。（コンピュータネットワークの基礎解説） 第5回：ネットワークインフラに関わるセキュリティ技術について解説する。（ネットワークを介した不正アクセス等の問題および対応策） 第6回：コンピュータウイルスについて、その特徴や対応策について解説する。 第7回：認証に関わる技術について、認証の種類、特徴などの解説を行う。 第8回：暗号化と電子認証について解説を行う。まず、これらの技術の理解に必要な項目について解説を行ってから、共通鍵暗号方式、公開鍵暗号方式等の解説を行う。また、公開鍵暗号方式を用いた電子認証についても解説を行う。（主に暗号に関する内容） 第9回：暗号化と電子認証について解説を行う。まず、これらの技術の理解に必要な項目について解説を行ってから、共通鍵暗号方式、公開鍵暗号方式等の解説を行う。また、公開鍵暗号方式を用いた電子認証についても解説を行う。（主に電子認証に関する内容） 第10回：情報セキュリティ上の事件・事故を理解する上では、技術的な面だけではなく、人間の心			

の盲点をつくソーシャルエンジニアリングと呼ばれる手法も重要である。このソーシャルエンジニアリングについて解説を行う。

第11回：それ自体が安全であるとは言えないインターネットを利用する際に、セキュリティを守るために利用される手法について解説をする。通信の各層でいくつかのセキュリティプロトコルがあり、それらの一部を紹介する。

第12回：無線LANのセキュリティ技術について解説を行う。まず無線LANの技術的概要について解説を行った後、無線LANに特有の問題およびそのセキュリティ対策について解説を行う。

第13回：情報セキュリティを脅かす攻撃者が行う不正アクセスについて、その主な手法と対策について解説する。

第14回：災害という異常事態の際にも情報セキュリティを確保することが求められる。このような災害に対してどのように備えるのか、また、実際に被災した時にどのような行動をとるべきかといった点について解説を行う。

第15回：講義の総まとめの解説を行う。

定期試験

テキスト

必要に応じて資料を配布する

参考書・参考資料等

改訂新版 セキュリティエンジニアの教科書（一般社団法人 日本シーサート協議会シーサート人材ワーキンググループ著、シーアンドアール研究所）

学生に対する評価

レポート（30%）および期末試験（70%）

授業科目名： 情報セキュリティ実験	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 佐々木宣介 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報通信ネットワーク		
授業のテーマ及び到達目標 情報セキュリティ分野の技術的内容について、演習を通じて深く理解することを目的とする。			
授業の概要 認証技術や暗号技術の動作の確認を通じて、セキュリティ技術に関する理解を深めるほか、サーバにおける情報セキュリティ対策に利用される各種手法、セキュリティ上のぜい弱性の有無について検査を行う手法等の演習を行う。			
授業計画 第1回：講義の目的、概要の説明を行う。また、簡単に情報セキュリティに関する考え方の復習を行う。 第2回：実験で利用する環境について、セットアップと動作確認を行う。 第3回：暗号化と電子認証の技術的内容のうち、主に暗号化について演習を通して学ぶ。 第4回：暗号化と電子認証の技術的内容のうち、主に電子認証について演習を通して学ぶ。 第5回：Webアプリケーションにおけるセキュリティ問題について、演習を通じて学ぶ。 第6回：Webアプリケーションにおけるセキュリティ問題の対策法について、演習を通じて学ぶ。 第7回：サーバを運用する際に実施するセキュリティ問題について、演習を通じて学ぶ。 第8回：サーバを運用する際に実施するセキュリティ問題の対策法について演習を通じて学ぶ。 第9回：ネットワークにおける調査手法について、演習を通じて学ぶ。（ネットワークマップ調査） 第10回：ネットワークにおける調査手法について、演習を通じて学ぶ。（データベースに対する検査手法） 第11回：ネットワークにおける調査手法について、演習を通じて学ぶ。（通信データの解析） 第12回：セキュリティを確保するために理解しておくべき技術について、演習を通じて学ぶ。（パスワードに対する攻撃手法と対策） 第13回：セキュリティを確保するために理解しておくべき技術について、演習を通じて学ぶ。（USBデバイスによるセキュリティ問題） 第14回：セキュリティを確保するために理解しておくべき技術について、演習を通じて学ぶ。（CTF形式による総合課題演習） 第15回：授業内容の復習とまとめを行う。			
テキスト 必要に応じて資料を配布する。			

参考書・参考資料等

改訂新版 セキュリティエンジニアの教科書（一般社団法人 日本シーサート協議会シーサート人材ワーキンググループ著、シーアンドアール研究所）

学生に対する評価

演習の際に出題する課題によって評価を行う。

授業科目名： 画像情報処理	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 肖業貴 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・マルチメディア表現・マルチメディア技術		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本科目は、情報化において映像情報の活用が欠かせない現状を踏まえて、情報科学の重要な分野として、視覚情報処理・画像処理の基礎、特にデジタル画像に関する基礎知識を習得させるために実施するものである。デジタル画像の基礎知識を習得させるとともに、演習を通して画像処理の基本技法を体験する。</p> <p>到達目標は以下の通りである。</p> <p><<知識・技能>></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ デジタル画像の生成プロセス、処理の基本技法（静止画圧縮を含む）が説明できる。 ・ CG画像の生成やDCTによる静止画圧縮をシミュレーションできる。 <p><<思考・判断・表現>></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 空間的フィルタリングや圧縮に関する技術の発想を自らの言葉で表現できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>デジタル画像情報は、生産、電気電子、機械、交通、気象、農水産業、宇宙といった様々な分野にとどまらず、我々の社会生活、日常生活においても活用されるようになってきている。特にIoT・AIの応用技術の発展においてはその利活用が欠かせない。本科目では、デジタル画像情報処理の基礎知識や技法を身につけることを目的とする。具体的には、①デジタル画像の生成（空間サンプリング、量子化、CG生成）、②デジタル画像の基本処理技術（幾何学処理、各種空間フィルタリング）、③画像圧縮技術（静止画と動画の圧縮）、④画像処理基本技術演習、を主な授業内容とする。授業後半にMATLABを用いて演習を行い、画像情報の基本処理技術への理解を深める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業計画の説明、序論：人と計算機はどう違うか？なぜ人の情報処理を解明する必要があるか？</p> <p>第2回：脳における情報処理：大脳皮質における情報処理、神経細胞の構造・機能</p> <p>第3回：視覚情報処理の流れ、網膜における情報処理</p> <p>第4回：デジタル画像処理の歴史、デジタル画像処理の応用分野、デジタル画像処理の基本課題</p> <p>第5回：デジタル画像の生成（空間サンプリング、量子化）、画像の空間解像度、輝度分解能</p> <p>第6回：色彩の基本、3原色原理、カラー画像</p> <p>第7回：画像の拡大・縮小、画像の回転、画像の濃度変換</p>			

<p>第8回：空間フィルタリング手法，平滑化フィルタ，特徴抽出フィルタ，鮮鋭化フィルタ</p> <p>第9回：静止画の圧縮：情報保存型圧縮（Huffman coding, ARによるPredictive coding），情報非保存型圧縮（直交変換2-D DCTなどを用いた圧縮，ベクトル量子化による圧縮（Vector quantization (VQ)））</p> <p>第10回：動画の圧縮：動きベクトルの検出（Motion estimation）による圧縮</p> <p>第11回：画像処理演習準備：MATLABコマンド，MATLABプログラム形式，MATLABによる画像読み込みと書き込み</p> <p>第12回：画像処理演習(1)：デジタル画像の拡大・縮小（プログラム作成と処理画像による確認）</p> <p>第13回：画像処理演習(2)：デジタル画像のフィルタリング（エッジ検出プログラムの作成とエッジ画像による確認）</p> <p>第14回：画像処理演習(3)：静止画の圧縮（2-D DCTを用いた圧縮と画質の確認）</p> <p>第15回：授業統括（顔画像による個人識別技術の紹介を含む）</p> <p>定期試験</p>
<p>テキスト</p> <p>特に指定しない。授業関連資料を印刷し配布する。また，授業スライドをTEAMSにて事前配信する。</p>
<p>参考書</p> <p>酒井『デジタル画像処理入門』コロナ社，1997。</p> <p>平井『視覚と記憶の情報処理』倍風館，1995。</p> <p>藤岡 他『画像処理の基礎』昭晃堂，2002。</p> <p>田村『コンピュータ画像処理』オーム社，2002。</p> <p>谷口『画像処理工学』共立出版，1996。</p> <p>鳥脇『パターン認識と画像処理』朝倉書店，1997。</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>4回以上の欠席は評価の対象外とする。</p> <p>演習課題と期末試験(70%)や，演習への取り組み(30%)と出席状況を総合的に評価する。</p>

授業科目名： 音声情報処理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 折本寿子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・マルチメディア表現・マルチメディア技術		
授業のテーマ及び到達目標 音、画像に対する信号処理を行い、信号処理の方法を理解し自ら処理プログラムが作成できることを到達目標とする			
授業の概要 プログラム言語（MATLAB）を利用し、音声信号処理、画像処理の基礎を学ぶ			
授業計画 第1回：MATLABの使い方 第2回：1. 簡単な音声処理（1.1 波形データの生成、1.2 1次元データの可視化） 第3回：1. 簡単な音声処理（1.3 時間波形の重ね合わせ、1.4 時間波形の連結、1.5 読み込んだデータの加工） 第4回：2. 簡単な画像処理（2.1 画像の構造、2.2 画像・ビデオの読み込み1） 第5回：2. 簡単な画像処理（2.2 画像・ビデオの読み込み2、2.3 領域の抽出） 第6回：3. 音声のフーリエ変換（3.1 周期現象、3.2 フーリエ変換） 第7回：3. 音声のフーリエ変換（3.3 窓関数、3.4 実データのスペクトル解析） 第8回：3. 音声のフーリエ変換（3.5 スペクトログラム、3.6 逆フーリエ変換） 第9回：4. 音声フィルタ（4.1 線形フィルタ） 第10回：4. 音声フィルタ（4.2 インパルス応答、4.3 IIRフィルタ） 第11回：5. 画像の周波数領域処理（5.1 空間周波数、5.2 2次元フーリエ変換） 第12回：5. 画像の周波数領域処理（5.2 2次元フーリエ変換、5.3 周波数領域でのフィルタ処理） 第13回：5. 画像の周波数領域処理（5.4 周波数領域での画像拡大） 第14回：7. 音声データの相関（7.1 相互相関） 第15回：7. 音声データの相関（7.2 自己相関） 定期試験			
テキスト 伊藤克亘他，「MATLABで学ぶ実践画像・音声処理入門」，コロナ社			
参考書・参考資料等 授業内で適宜配布する			
学生に対する評価 定期試験（60%），毎回の授業で出題するレポート（30%），授業の取組状況（10%）			

授業科目名： グラフィカルプログラミング	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 宇野健
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・マルチメディア表現・マルチメディア技術		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>本科目の到達目標は、視覚的なアプリケーションの製作演習を通して、インタラクティブ（双方向）なGUI（Graphical User Interface）システムの開発ができるようになることである。そのため、前半では、主にJavaScriptとスタイルシート（CSS）を用い、Web上での視覚的表現の基本知識と技能を修得できるようになることを目的とする。後半ではオリジナルの視覚アプリケーションの企画・要件定義・設計・開発を行い、最終的に発表することによって、視覚的なアプリの開発ができることと、それを説明できるようになることを目標とする。</p>			
授業の概要			
<p>この講義では、まず前半でWeb上のGUIアプリ開発では事実上の標準となっているHTML5やCSSを用い、様々な視覚的表現や、アニメーション作成技法を習得する。インタラクティブなGUIアプリケーションの作成のため、JavaScriptとCSSを用いたアプリケーション作成演習をおこなう。演習を通してイベントやイベントハンドラといった、GUIプログラミングの基本概念的修得と、それらの開発スキルを身に付ける。</p> <p>後半では、前半で修得した知識とスキルを用い、オリジナルアプリケーションの開発を行う。まず、アプリの基本設計や仕様策定のレポートを作成し、これに沿ってアプリケーションの制作を行う。後半は毎時間進捗の報告を行いながら目的としたアプリの完成を目指す。最後に自ら作成したアプリケーションについてのプレゼン発表を行い、相互評価などを実施する。</p>			
授業計画			
第1回：授業のオリエンテーション・開発環境の構築・ソースプログラム作成演習			
第2回：CSSの応用1・ソースプログラム作成演習			
第3回：CSSの応用2・ソースプログラム作成演習			
第4回：CSSとJavaScriptのアニメーション・ソースプログラム作成演習			
第5回：移動速度と方向の制御・ソースプログラム作成演習			
第6回：オブジェクトの重なり判定・ソースプログラム作成演習			
第7回：アプリの開発1・ソースプログラム作成演習			
第8回：アプリの開発2・ソースプログラム作成演習			
第9回：物理法則の適用・ソースプログラム作成演習			
第10回：外部ファイルの読み込みと制御・ソースプログラム作成演習			
第11回：複数オブジェクトの制御・ソースプログラム作成演習			

第12回：タイマーとデータ保存の応用・ソースプログラム作成演習

第13回：CSSのフィルタ処理とJavaScriptによる制御・ソースプログラム作成演習

第14回：最終アプリケーションの開発・ソースプログラム作成演習

第15回：最終プレゼンテーション

テキスト

本科目専用のWebサイトを利用する。(http://mis.pu-hiroshima.ac.jp/)

参考書・参考資料等

授業中に指示する

学生に対する評価

企画・設計レポート30%

開発したアプリケーションとそのプレゼン発表 70%

授業科目名： 情報科教育法 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 阿濱 茂樹
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>情報科の目標や内容を理解するとともに、基礎的な学習理論を理解し、教材開発や授業設計を行う方法、設計された授業を実践する技能を身に付ける。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報科の目標や内容について理解し、情報科の授業設計や教材開発ができる ・情報科の授業を構想し、具体的な学習指導を実践する基礎的な力を身につける 			
授業の概要			
<p>情報科の意義や学習指導要領に示された教科の内容について座学で学びます。また、情報科の学習デザインや学習評価、教材開発の方法について座学に演習を交えて実践的に学びます。さらに、演習として授業を構想して実際に模擬授業を行い、省察と再考を試みます。</p>			
授業計画			
<p>第1回：授業オリエンテーション</p> <p>教育課程における本授業の位置付け、授業の概要、学習・教育到達目標を理解する。</p> <p>情報科の学習指導に必要な基礎知識の確認</p> <p>第2回：教科の内容と目的</p> <p>情報科の内容と学習する目的についての解説</p> <p>第3回：学習指導要領の解説①</p> <p>情報Ⅰについての解説</p> <p>第4回：学習指導要領の解説②</p> <p>情報Ⅱについての解説</p> <p>第5回：情報科の学習デザイン</p> <p>情報科の学習デザインについての解説（情報通信技術の効果的な活用法を含む）</p> <p>第6回：情報科の評価</p> <p>情報科の評価方法についての解説</p> <p>第7回：情報科の教材</p> <p>情報科の教材開発方法についての解説</p> <p>第8回：情報科の教材開発演習</p> <p>情報科の教材開発の演習</p> <p>第9回：開発した教材の発表と省察</p>			

<p>開発した教材の発表と自己評価・他者評価</p> <p>第10回：情報科の授業設計 情報科の授業設計についての解説（情報通信技術の効果的な活用法を含む）</p> <p>第11回：情報科の授業検討 情報科の学習指導案の試作（情報通信技術の効果的な活用法を含む）</p> <p>第12回：情報科の授業検討の発表 試作した学習指導案の発表</p> <p>第13回：情報科の授業の省察と再考 指導案の省察と再考</p> <p>第14回：情報科の歴史 情報科および関連教科等の歴史についての解説</p> <p>第15回：情報科についての国際比較 諸外国における情報教育科目についての解説</p> <p>定期試験は実施しない。</p>
<p>テキスト</p> <p>「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 情報編」（文部科学省、2018年）</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「高等学校情報科「情報Ⅰ」教員研修用教材」（文部科学省、2019年） ・「高等学校情報科「情報Ⅱ」教員研修用教材」（文部科学省、2020年）
<p>学生に対する評価</p> <p>レポート50%、小テスト：20%、発表20%、ポートフォリオ10%</p>

授業科目名： 情報科教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 阿濱 茂樹
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 情報科の教師として教科経営に必要な知識を身につけるとともに、指導や評価の計画を立案し具体的な場面を想定した授業案を検討することができる。 【到達目標】 ・情報科の教科経営に必要な知識を身につける。 ・情報科の学習指導計画を立案し、内容に関連付けた授業を構想する力を身につける。			
授業の概要 「情報科」の教師として、指導計画や評価計画など教科経営に必要な事項を座学で学びます。また、実際に指導計画や評価計画を立案する演習や具体的な授業を想定した模擬授業を行います。			
授業計画 第1回：授業オリエンテーション 教育課程における本授業の位置づけ、授業の概要、学習・教育到達目標を理解する。 情報科の教科経営に必要な基礎知識の確認 第2回：年間指導計画の検討 情報科の年間指導計画についての解説と演習 第3回：年間指導計画の発表と省察 情報科の年間指導計画の発表と省察 第4回：年間評価計画の検討 情報科の年間評価計画についての解説と演習 第5回：年間評価計画の発表と省察 情報科の年間評価計画の発表と省察 第6回：模擬授業（情報社会の問題解決）の検討 情報社会の問題解決について学ぶ学習指導について検討（情報通信技術の効果的な活用法を含む） 第7回：模擬授業（情報社会の問題解決）の実施と省察 情報社会の問題解決について学ぶ模擬授業の実施と省察（情報通信技術の効果的な活用法を含む） 第8回：模擬授業（コミュニケーションと情報デザイン）の検討			

コミュニケーションと情報デザインについて学ぶ学習指導について検討（情報通信技術の効果的な活用法を含む）

第9回：模擬授業（コミュニケーションと情報デザイン）の実施と省察

コミュニケーションと情報デザインについて学ぶ模擬授業の実施と省察（情報通信技術の効果的な活用法を含む）

第10回：模擬授業（コンピュータとプログラミング）の検討

コンピュータとプログラミングについて学ぶ学習指導について検討（情報通信技術の効果的な活用法を含む）

第11回：模擬授業（コンピュータとプログラミング）の実施と省察

コンピュータとプログラミングについて学ぶ模擬授業の実施と省察（情報通信技術の効果的な活用法を含む）

第12回：模擬授業（情報通信ネットワークとデータの活用）の検討

情報通信ネットワークとデータの活用について学ぶ学習指導について検討（情報通信技術の効果的な活用法を含む）

第13回：模擬授業（情報通信ネットワークとデータの活用）の実施と省察

情報通信ネットワークとデータの活用について学ぶ模擬授業の実施と省察（情報通信技術の効果的な活用法を含む）

第14回：学習評価の試行と省察

情報科の学習評価についての演習と省察

第15回：情報科の教科経営

情報科の教科運営についての解説

定期試験は実施しない。

テキスト

「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 情報編」（文部科学省、2018年）

参考書・参考資料等

- ・「高等学校情報科「情報Ⅰ」教員研修用教材」（文部科学省、2019年）
- ・「高等学校情報科「情報Ⅱ」教員研修用教材」（文部科学省、2020年）

学生に対する評価

レポート50%、小テスト：20%、発表20%、ポートフォリオ10%

授業科目名： 介護等体験	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名： 向居暁 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>義務教育に従事する教員が個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深めることの重要性に鑑み、教員としての資質の向上を図り、義務教育の一層の充実を期する観点から、介護等体験特例法の規定に基づき、中学校の教諭の普通免許状の授与を受けようとする者に、障害者、高齢者等に対する介護、介助、これらの者との交流等の体験を行ってもらふ。これらの体験を通して、教職志望学生が自他の価値観の相違を認め、人の心の痛みがわかるようになることなどを目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>事前学習及び事後学習は、13回分を、主に講義形式及び演習形式で実施する。事前指導では、介護等体験の意義や各施設での体験に関する知識や心構えなどについて学習してもらふ。事後指導では、体験終了後に、体験について学生間で交流しながら、体験の反省・総括を行ってもらふ。体験は原則として、特別支援学校で2日間、社会福祉施設で5日間にわたって実施される。体験は一定の期間に全員が一斉に行うのではなく、体験期間は体験先等の事情により、体験学生ごとに異なる。体験先は、特別支援学校については広島県教育委員会、社会福祉施設については広島県社会福祉協議会において決定される。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：事前指導1：授業ガイダンス、介護等体験の概要、教職課程履修説明 第2回：事前指導2：4年生の体験談、後輩へのアドバイス、特別支援学校・社会福祉施設の概要 第3回：事前指導3：介護等体験先の決定、介護等体験先の概要、介護等体験の意義と課題、介護等体験の手順と方法、合同事前指導の説明 第4回：事前指導4：特別支援学校における介護等体験の合同事前指導 第5回：事前指導5：障害児・者とのコミュニケーション（手話等） 第6回：事前指導6：特別支援学校における介護等体験オリエンテーション 第7回：事後指導1：諸連絡、中間の介護等体験の体験発表・交流、反省、まとめ 第8回：事前指導7：社会福祉施設における介護等体験についての講話 第9回：事前指導8：社会福祉施設における介護等体験オリエンテーション 第10回：事後指導2：中間の介護等体験の体験発表・交流、反省、まとめ 第11回：事後指導3：中間の介護等体験の体験発表・交流、反省、まとめ 第12回：事後指導4：中間の介護等体験の体験発表・交流、反省、まとめ</p>			

第13回：事後指導5：最終の介護等体験の体験発表・交流、反省、まとめ

テキスト

教師をめざす人の介護等体験ハンドブック（四訂版）（現代教師養成研究会 編、大修館書店）

参考書・参考資料等

介護等体験ガイドブック 新フィリア（全国特別支援学校長会 編著、ジアース教育新社）
よくわかる社会福祉施設（第6版）（増田雅暢 他 著、全国社会福祉協議会）

学生に対する評価

授業参加レポート39%（3%×13回）、体験状況・体験先からの評価21%（3%×7日）、体験日誌等提出物15%、期末レポート25%の割合で評価する。

授業科目名： 人権論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 岡田高嘉 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【知識・技能の観点】</p> <p>① 憲法上の人権保障の意義を説明できる。</p> <p>② 多種多様な人権問題の概要、発生原因を説明できる。</p> <p>③ 人権問題の解決策を指摘することができる。</p> <p>【思考・判断・表現の観点】</p> <p>④ 現代の人権問題を多角的かつ冷静に考察することができる。</p> <p>⑤ 直観に頼らず、論理的な思考を用いて説得力ある論述ができる。</p> <p>【主体性・協働性の観点】</p> <p>⑥ テレビや新聞等で見聞きする人権問題に関心を持つことができる。</p> <p>⑦ 専門分野にとらわれず、幅広い知識と柔軟な思考の大切さを自覚できる。</p> <p>⑧ 他者と協働して課題に取り組むことができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>人権思想の歴史、その発展過程を踏まえ、今日、我々に保障される自由・人権の内容を概観する。その上で、日本の社会における人権問題を考察する。また、人権の尊重は、全人類にとって最重要課題の1つであるから、外国で起こっている人権問題にも目を向ける必要がある。したがって、外国の人権問題についても、日本との関係を意識しつつ、適宜取り扱っていく予定である。</p> <p>主要な論点としては、①人権思想の展開、②自己決定権、③差別問題、④社会的弱者の人権などである。授業においては、裁判例その他の参考資料を利用しつつ、グループワークを取り入れながら、具体的な問題に即して深く考えることができるよう心がける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：人権思想の展開と概要</p> <p>第2回：宗教的少数者の人権（1）エホバの証人輸血拒否事件</p> <p>第3回：宗教的少数者の人権（2）剣道受講拒否事件</p> <p>第4回：宗教的少数者の人権（3）フランスにおけるライシテの原則と信教の自由の対立</p> <p>第5回：アメリカにおける人種差別（1）黒人差別の歴史と奴隷制度</p> <p>第6回：アメリカにおける人種差別（2）人種隔離政策</p> <p>第7回：アメリカにおける人種差別（3）人種隔離政策の撤廃と積極的差別是正措置</p>			

第8回：性的少数者の人権 (1) 同性愛の自由

第9回：性的少数者の人権 (2) 諸外国における同性婚の導入

第10回：性的少数者の人権 (3) トランスジェンダーの権利保障

第11回：性的少数者の人権 (4) 日本の性別変更要件

第12回：生殖補助医療と人権

第13回：男女平等

第14回：精神障害と人権

第15回：外国人の人権

テキスト

テキストは使用しない。プリントを配布する。

参考書・参考資料等

横藤田誠『精神障害と人権』（法律文化社、2020年）

棟居快行ほか『基本的人権の事件簿第7版』（有斐閣、2024年）

西村裕三編『判例で学ぶ日本国憲法第3版』（有信堂、2024年）

学生に対する評価

- ・課題提出 (30点)
- ・小テスト (30点)
- ・期末レポート (40点)

授業科目名： 道徳教育論	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名： 宮里智恵
			担当形態：単独
科 目	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（中学校） ・大学が独自に設定する科目（高等学校） 		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の理論及び指導法 		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>学校における道徳教育の目的と内容・方法について理解を深める。特に「道徳科」を中心にして実際の道徳授業を検討しながら、発達段階に応じた道徳教育のあり方についての理解を深める。</p>			
<p>授業の概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 道徳授業の成り立ち 2 道徳授業での学び 3 学校教育の中での道徳授業の位置づけ 4 子どもの道徳性の発達の特徴 5 学習指導案作成の考え方 6 道徳科の評価の考え方 7 教材研究と教材分析 8 発問構成の工夫、板書構成の仕方、ICTを用いた道徳科の授業 9 心情タイプの学習指導案の作成と模擬授業（グループ） 1 0 心情タイプの学習指導の授業改善 1 1 心情ジレンマタイプの学習指導案の作成と模擬授業（グループ） 1 2 心情ジレンマタイプの学習指導の授業改善 1 3 家庭や地域との連携から考えるプログラムタイプの学習指導 1 4 学習指導案の作成①（グループによるディスカッション） 1 5 学習指導案の作成②（個別） 			
<p>授業計画</p> <p>第1回：道徳授業の成り立ちについて「道徳科」の観点から講義する。</p> <p>第2回：道徳授業での学びについて、道徳教育の目標と「道徳科」の目標の観点から講義する。</p> <p>第3回：学校教育の中での道徳授業の位置づけについて講義する。</p> <p>第4回：子供の道徳性の発達の特徴について講義する。</p> <p>第5回：道徳科の学習指導案作成の考え方について講義する。</p> <p>第6回：道徳科の評価のあり方について講義する。</p>			

<p>第7回：教材研究と教材分析について、グループディスカッションを交えながら講義する</p> <p>第8回：発問構成の工夫や板書構成の工夫、ICTを用いた授業づくりについてグループディスカッションを交えながら講義する。</p> <p>第9回：心情タイプの学習指導案をグループで作成し、模擬授業をする。</p> <p>第10回：心情タイプの授業について実際の道徳授業のDVDを視聴し、グループ案と比較しながらディスカッションし、授業改善の視点を話し合う。</p> <p>第11回：心情ジレンマタイプの学習指導案をグループで作成し、模擬授業をする。</p> <p>第12回：心情ジレンマタイプの授業について実際の道徳授業のDVDを視聴し、グループ案と比較しながらディスカッションし、授業改善の視点を話し合う。</p> <p>第13回：家庭や地域との連携から考えるプログラムタイプの学習指導について、グループディスカッションを交えながら話し合う。</p> <p>第14回：1つの教材を選び、学習指導案の作成に向けてグループディスカッションをする。</p> <p>第15回：個別に学習指導案を作成する。（板書計画・発問計画・ICTの活用を含む）</p>
<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編 ・配布資料
<p>参考書・参考資料等</p> <p>特になし</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>レポート（40%）、学習指導案（60%）で評価する。</p>

授業科目名： 日本国憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 岡田高嘉 担当形態：単独
科 目	教育職員免許状施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・日本国憲法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【知識・技能の観点】</p> <p>① 憲法の存在意義を説明できる。</p> <p>② 基本的人権の内容を説明できる。</p> <p>③ 権力分立の意義と統治構造を説明できる。</p> <p>【思考・判断・表現の観点】</p> <p>④ 現代の社会問題を憲法と関連づけて考察することができる。</p> <p>⑤ 直観に頼らず、法的な思考を用いて説得力ある論述ができる。</p> <p>【主体性・協働性の観点】</p> <p>⑥ テレビや新聞等で見聞きする社会問題に関心を持つことができる。</p> <p>⑦ 専門分野にとらわれず、幅広い知識と柔軟な思考の大切さを自覚できる。</p> <p>⑧ 他者と協働して課題に取り組むことができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>ニュースや新聞等では、しばしば憲法にかかわる社会問題が取り上げられる。この授業では、憲法の核である人権保障と統治機構の概要を習得し、現代社会が直面している憲法問題を考察する法的思考能力の一端を養うことを目指す。</p> <p>授業のおおまかな内容は、憲法を支える立憲主義の思想の歴史的展開を概観し、次いで日本国憲法が規定する基本的人権の具体的内容と統治機構について解説する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション ①授業の目標や内容 ②授業の進め方 ③成績の評価方法</p> <p>第2回：憲法の歴史 ①日本の憲法の歴史 ②フランス革命</p> <p>第3回：近代立憲主義 ①自由国家 ②自由権 ③自由国家の矛盾</p> <p>第4回：現代立憲主義 ①社会国家 ②社会権</p> <p>第5回：大日本帝国憲法（明治憲法） ①明治憲法の制定経緯 ②明治憲法の特徴</p> <p>第6回：日本国憲法の誕生 ①日本国憲法の制定経緯 ②マッカーサー草案 ③押し付け憲法論</p> <p>第7回：日本国憲法の概要 ①国民主権 ②基本的人権の尊重 ③法の支配 ④平和主義</p> <p>第8回：平和主義 ①憲法9条の解釈 ②9条改正論 ③戦力統制手段としての徴兵制度の意義</p> <p>第9回：法の下での平等 ①平等原則の意義 ②夫婦同氏制度の問題点</p>			

第10回：精神的自由権 ①思想良心の自由 ②信教の自由、③表現の自由 第11回：教育を受ける権利 ①子ども達の教育を受ける自由 ②教師の教育の自由 ③教科書検定 第12回：国会と立法権 ①国民主権 ②間接民主制 ③国会の役割 第13回：内閣と行政権 ①議院内閣制 ②内閣と内閣総理大臣 ③解散権の限界 第14回：裁判所と司法権 ①裁判所の役割 ②司法審査制度 第15回：まとめ 定期試験
テキスト テキストは使用しない。プリントを配布する。
参考書・参考資料等 (1) 水島朝穂『18歳からはじめる憲法 第2版』（法律文化社、2016年） (2) 長谷部恭男『憲法と平和を問いなおす』（筑摩書房、2004年） (3) 池上彰『池上彰の憲法入門』（ちくまプリマー新書、2013年） (4) 渋谷秀樹『憲法への招待 新版』（岩波新書、2014年） (5) 木村草太『憲法という希望』（講談社現代新書、2016年） (6) 西村裕三編『リーガリマインド入門 第2版』（有信堂、2019年） (7) 西村裕三編『判例で学ぶ日本国憲法 第3版』（有信堂、2024年）
学生に対する評価 ・課題提出（30点） ・小テスト（30点） ・期末試験（40点）

授業科目名： スポーツ実技 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 辻文、黒坂志穂、村上妃斗美 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許状施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p><知識・技能の観点></p> <p>①バレーボール、フットサルおよびバドミントンの特性や技術・戦術を説明できる。</p> <p>②運動中の身体的負荷（きつさ）や身体状態を自身で把握することができる。</p> <p><思考力・判断力・表現力の観点></p> <p>③各種目の技能に関する情報を整理してまとめ、練習メニューの考案・実践・評価を行うことができる。</p> <p>④運動・スポーツに関する多様な情報を整理してまとめ、根拠に基づいて論理的に主張を展開することができる。</p> <p><主体性・協働性の観点></p> <p>⑤他者と協働することの大切さを理解し、グループ毎の練習および試合などに積極的に取り組んでいる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>この授業では、バレーボール、フットサルおよびバドミントンを取り扱います。これらのスポーツを通して、健全な精神と体力を育むために必要な知識や技能を実践的に学んでいきます。授業は、6～7名のグループに分け、そのグループ内で、技能習得の目標と練習メニューの考案⇒実践⇒評価を行うなど、学生間で協働しながら進めていきます。それにより、学生が主体的に運動・スポーツに携わる態度を育むことを目指していきます。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（体育館およびトレーニング室の使用規則について、アンケートの実施、自己紹介など）</p> <p>第2回：グルーピング、アイス・ブレイク、身体ほぐし運動</p> <p>第3回：フットサル【基礎技術を身につける①：キック(蹴る)・トラップ(止める)の練習、試合】</p> <p>第4回：フットサル【基礎技術を身につける②：キック・ドリブル(運ぶ)の練習、試合】</p> <p>第5回：フットサル【基礎技術を身につける③：シュートの練習、試合】</p> <p>第6回：筋力トレーニング機器の使用について、フットサル【基礎技術の応用①：攻撃、試合】</p> <p>第7回：フットサル【基礎技術の応用②：守備、試合】</p> <p>第8回：バレーボール【基礎技術を身につける①：パス・レシーブの練習、試合】</p> <p>第9回：バレーボール【基礎技術を身につける②：サーブの練習、試合】</p>			

第10回：バレーボール【基礎技術を身につける③：トス・スパイクの練習、試合】

第11回：バレーボール【基礎技術の応用：ラリーを続けるための練習、試合】

第12回：バドミントン【基礎技術を身につける①：ストロークの練習、試合】

第13回：バドミントン【基礎技術を身につける②：ショットの練習、試合】

第14回：バドミントン【基礎技術を身につける③：ショットの練習、試合】

第15回：バドミントン【基礎技術の応用：ショットの練習、試合】

テキスト

教科書なし。適宜、資料プリントを配布する。

参考書・参考資料等

伸ばす筋肉がよくわかる!スポーツ・ストレッチ (秦 ワタル)、5つのコツで もっと伸びるカラダが変わる ストレッチ・メソッド (谷本道哉)、体幹力を身につける コア・ストレッチ (木場 克己)、トラップ が身につく本 (内藤清志, 小林大輔監修)、1日でキックがうまくなる方法 (ジースポーツ制作・著作)、バレーボール (大山加奈監修)、バレーボール練習メニュー200 (米山一朋監修)、バレーボール攻撃戦術&練習メニュー80 (米山一朋監修)、陣内貴美子バドミントン入門：トッププレイヤーが伝授する、勝つための基本と戦術 (陣内貴美子)、バドミントン教室—技術と練習法 (梅野尾昌一)

学生に対する評価

課題提出・授業態度55% (到達目標②③④⑤)

ルールに関する小テスト15% (到達目標①)

最終レポート30% (到達目標①④)

授業科目名： 保健体育理論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 辻文 担当形態：単独
科 目	教育職員免許状施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p><知識・技能の観点></p> <p>①現代の日本人の健康状態や運動・スポーツと健康のかかわりを説明できる。</p> <p>②生涯に渡って運動・スポーツを継続するために必要となる環境や取り組みを説明できる。</p> <p>③運動・トレーニングを行った場合に身体の中でどのような変化（生理的変化）が起こるのか、さらに、それらが健康の保持・増進とどのように関係するのか説明できる。</p> <p>④運動を実施する上で必要となる基本的な技能（適切なウォーミングアップ、ストレッチ、クールダウンの方法および目的に応じた運動トレーニングの種類や方法の選択）を身につける。</p> <p><思考力・判断力・表現力の観点></p> <p>⑤健康・スポーツ科学に関する多様な情報（論文，専門書）を整理してまとめ、根拠に基づいて論理的に主張を展開することができる。</p> <p><主体性・協働性の観点></p> <p>⑥他者と協働することの大切さを理解し、グループワークなどに積極的に取り組んでいる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業は、2部構成になっています。第1章（第1回～第6回）では、「健康と運動」について考えていきます。日本人の健康状態を理解し、運動・スポーツが病気（生活習慣病など）やこころの健康とどのように関わるのか、さらに運動・スポーツを生涯に渡って継続していくにはどういった環境や取り組みが必要になるのか理解を深めます。</p> <p>第2章（第7回～第15回）では、「運動時の身体のしくみ」と「運動・トレーニングの実際（方法）」について学びます。「運動時の身体のしくみ」では、運動やトレーニングを行うと身体の中でどのような変化や適応が起こるのか、さらにそれらの身体的変化が健康とどのように関わるのか理解を深めます。「運動・トレーニングの実際（方法）」では、実際に運動を実施・継続していく上で、どのようなトレーニングの種類があり、それぞれどのような効果が得られるのか等について理解を深めてきます。これらの授業を通して、生涯スポーツを実践していく上での基本的知識、態度および技能を身につけていきます。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：「オリエンテーション」と第1章 健康と運動</p> <p>第2回：「オリエンテーション」と第1章 健康と運動 1.1. 健康の概念</p> <p>第3回：第1章 健康と運動 1.2. 日本人の健康状態と健康づくり施策</p>			

<p>第4回：第1章 健康と運動 1.3. 生活習慣病</p> <p>第5回：第1章 健康と運動 1.4. 身体活動増加（運動）の重要性</p> <p>第6回：第1章 健康と運動 1.5. 身体活動の増加を目指して</p> <p>第7回：第2章 運動時の身体のしくみとトレーニングの実際 2.1. 筋とエネルギー代謝</p> <p>第8回：第2章 運動時の身体のしくみとトレーニングの実際 2.2. トレーニング(レジスタンス運動)</p> <p>第9回：第2章 運動時の身体のしくみとトレーニングの実際 2.3. 運動時の呼吸のしくみ</p> <p>第10回：第2章 運動時の身体のしくみとトレーニングの実際 2.4 運動時の循環のしくみ</p> <p>第11回：第2章 運動時の身体のしくみとトレーニングの実際 2.5. トレーニング(有酸素性運動)</p> <p>第12回：第2章 運動時の身体のしくみとトレーニングの実際 2.6. トレーニング(ストレッチング)</p> <p>第13回：第2章 運動時の身体のしくみとトレーニングの実際 2.7. 運動と環境</p> <p>第14回：第2章 運動時の身体のしくみとトレーニングの実際 2.8. 青年期の健康づくり運動1</p> <p>第15回：第2章 運動時の身体のしくみとトレーニングの実際 2.9. 青年期の健康づくり運動2とこれまでのまとめ</p> <p>定期試験</p>
<p>テキスト</p> <p>教科書なし。毎回、資料プリントを配布する。</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>健康づくりのための運動の科学（鶴木秀夫 編、化学同人）、スポーツ生理学（富樫健二 編、化学同人）、トレーニングの科学的基礎（宮下充正、ブックハウス・エイチディ）</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>毎回のミニッツペーパー・授業態度等15%（到達目標①②③④⑤）</p> <p>課題レポート（計4回）30%（到達目標⑤⑥）</p> <p>期末試験55%（到達目標①②③④）</p>

授業科目名： 英語総合 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 草薙邦広、笠本晃代、黒住奏 、ホーソン寿栄 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許状施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>異文化への関心と理解を深めるため、英語の語彙・語法・文法などに関する知識の積み上げを行い、英語で書かれた情報や考えを、多様な社会的・文化的・歴史的背景を踏まえて理解する技能を高める。また、実際の言語使用場面を想定しながら、自らの考えを英語にて発信する技能の習得を目指す。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>さまざまな分野の英文を読んで語彙・語法・文法などに関する知識の積み上げを行う。文章の概要や要点を読み取り、音読・読解演習を行って英文読解および英語によるコミュニケーションに必要な技能を向上させる。読んだ内容についての意見をシェアする、ディスカッションを行うといった話すことに関わる能動的学習を軸とし、書く・話す・聞く技能とも関連付け、読みの深化を図る活動を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第 1 回：ガイダンス</p> <p>第 2 回：語彙学習①（さまざまな語彙学習方略）</p> <p>第 3 回：語彙学習②（多読と音読）</p> <p>第 4 回：語法・文法①（品詞と構造）</p> <p>第 5 回：語法・文法②（さまざまな語法）</p> <p>第 6 回：物語文①（スラッシュリーディングと情報の整理）</p> <p>第 7 回：物語文②（照応関係と推論）</p> <p>第 8 回：物語文③（読解演習・英語でのディスカッション）</p> <p>第 9 回：エッセイ①（段落・構造・結束性）</p> <p>第 10 回：エッセイ②（読解演習・プレゼンテーション）</p> <p>第 11 回：説明文①（パラグラフライティング）</p> <p>第 12 回：説明文②（談話標識）</p> <p>第 13 回：科学的文章①（IMRAD形式と情報の典拠）</p> <p>第 14 回：科学的文章②（事実・推測・意見に関するディスカッション）</p> <p>第 15 回：説明文と科学的文章（読解演習・プレゼンテーション）</p> <p>定期試験</p>			

テキスト

授業内において適宜指示をする。

参考書・参考資料等

授業内において適宜指示をする。

学生に対する評価

授業の目標（語彙・語法・文法などに関する知識の積み上げ、英語におけるコミュニケーション能力）の達成度を測るため次の方法で評価を行う。

オンライン小テスト（語彙・語法・文法）：30%、期末テスト50%、ディスカッションやプレゼンテーション：20%。

授業科目名： 英語総合Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 草薙邦広、笠本晃代、黒住奏 、ホーソン寿栄 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許状施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>英語の語彙・語法・文法などに関する知識や、背景知識の活用など英文読解に必要な技能等、英語総合Ⅰで学んだことがらを駆使してさまざまな英文を理解し、書き手・話し手の意図を正確に捉える力を養う。また、実際の言語使用場面を想定しながら、自らの考えを英語にて適切に発信する技能の習得を目指す。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>音読・多読・速読や多聴といった活動を通じて、文章の構成やキーワードを意識して内容を把握する技能を高め、その定着を図る。加えて、読んだ内容についての意見をシェアする、ディスカッションを行うといった話すことに関わる能動的学習を軸とし、読みの深化から書く・話す・聞く技能にもつながる活動を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：読解方略①（スラッシュリーディング）</p> <p>第3回：読解方略②（未知語推測）</p> <p>第4回：速読①（部分読みと全部読み）</p> <p>第5回：速読②（内容語と機能語）</p> <p>第6回：多読①（ダイアリー）</p> <p>第7回：多読②（ジャンルとテーマ）</p> <p>第8回：多聴①（ポッドキャスト）</p> <p>第9回：多聴②（シャドーイング）</p> <p>第10回：多聴多読（演習）</p> <p>第11回：さまざまなメディアと英語①（新聞記事を読む・ディスカッション）</p> <p>第12回：さまざまなメディアと英語②（ニュースを聞く・ディスカッション）</p> <p>第13回：さまざまなメディアと英語③（SNSを読む・ディスカッション）</p> <p>第14回：精読①：サマリーとコメント</p> <p>第15回：精読②：プレゼンテーション</p> <p>定期試験</p> <p>テキスト</p>			

授業内において適宜指示をする。

参考書・参考資料等

授業内において適宜指示をする。

学生に対する評価

この科目は学期中に行われるTOEIC-IP（もしくは学期中に受験し学期末までにスコアが確認できるTOEIC公開テスト）を受験することを単位取得要件とし、授業の目標（語彙・語法・文法などに関する知識の積み上げ、英文読解力向上）の達成度を測るため次の方法で評価を行う。

授業内でのパフォーマンス（ディスカッション・プレゼンテーション）：30%、期末テスト40%、多読教材の消化：20%、多聴教材の消化：10%

授業科目名： 教育学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 田中崇教、藤井宣彰 担当形態：オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>教育の基本的概念を身に付けるとともに教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係の理解、ならびに教育に関する様々な思想や歴史に関する基礎的知識を身に付け、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代に至るまでの教育及び学校の変遷および、そこでなされている教育実践の基礎を理解することがテーマである。</p> <p>具体的な到達目標として次の点に関わる理解を掲げる。</p> <p>①教育学の諸概念並びに教育の本質及び目標 ②子供・教員・家庭・学校など教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係 ③歴史的視点に基づく現代社会の教育課題の特徴と改善への取り組み ④家族と社会による教育の歴史 ⑤学校や学習、家庭や子供に関わる教育の思想 ⑥代表的な教育家の思想 ⑦近代教育制度・方法の成立と展開</p>			
<p>授業の概要</p> <p>「教育とは何か・いかにあるべきか」という問いを考えるヒントとなる基礎的な教職的教養の涵養を目ざすとともに、教育分野が「人」とりわけ「子供」「教師（おとな・成人）」をどのように見ているのかということ意識しながら、教育に携わる者としての資質向上を図る。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーションおよび教職の使命・倫理性、愛情等についてあらためて考える（担当：田中崇教） 第2回：現代社会における教育問題および改善への取り組みとその根本思想に分け入る（担当：田中崇教） 第3回：「教育とは何か」を解きほぐす（担当：田中崇教） 第4回：近代教育学の基礎理論に迫る（担当：田中崇教） 第5回：諸外国における教育の思想と実践の展開を繙く—欧州圏—（担当：田中崇教） 第6回：諸外国における教育の思想と実践の展開を繙く—北米圏—（担当：田中崇教） 第7回：わが国における学校教育の思想と実践の展開に目を向ける（担当：田中崇教） 第8回：近代教育制度の思想と実践を読み解く（担当：田中崇教） 第9回：西欧における学校制度成立の歴史（担当：藤井宣彰）</p>			

第10回：我が国における学校制度成立の歴史（担当：藤井宣彰）

第11回：戦前期における学校の様子（担当：藤井宣彰）

第12回：学校における教職員配置（担当：藤井宣彰）

第13回：教師の専門性（担当：藤井宣彰）

第14回：現代の教育課題と開かれた学校づくり（担当：藤井宣彰）

第15回：生涯にわたる学習（担当：藤井宣彰）

テキスト

授業中に連絡する。

参考書・参考資料等

小笠原道雄・森川直・坂越正樹編『教育学概論』福村出版、2009年。

文部科学省「文部科学白書」

田代直人・佐々木司編『新しい教育の原理－現代教育学への招待－』ミネルヴァ書房、2010年

学生に対する評価

①期末レポート70%②授業および課題の取り組み内容30%

授業科目名： 教職入門	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中村勝美 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本授業は、教職課程の導入科目である。歴史的視点に加え、最近の教育改革の動向をふまえ、教師を目指す学生が具体的に教師の世界をイメージできるようになること、教職を考える上で必要な概念や知識を習得できることを目指している。</p> <p>授業の目標は下記の4点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 現代の教育の問題を理解し、教師の役割について考察することができる。 2) 教師の職務内容について説明できる。 3) 学修した内容を基に、自らの教師としての資質能力について省察できる。 4) 多様な意見を尊重して周囲と円滑にコミュニケーションを取り、協働できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>近年、孤立した子育て、育児不安や虐待、いじめや不登校、格差社会への不安など家庭や学校は様々な問題を抱えている。一方、変化の激しい時代の中で、教師に対しては地球や人類のあり方を自ら考え行動する能力、問題解決能力やコミュニケーション能力、実践的指導力などが求められている。本講義では教師という職業を選択することについて、学生自らが熟考する機会を提供すること、および教員養成に対する現代的課題を踏まえ、教育者としての使命感を育むことを目的とし、教師という職業に必要な基本的事項について学習する。また、現代の学校が抱える諸問題を取り上げながら、教師に求められる資質や役割について探求する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（講義の進め方、評価方法、参考図書） 教員採用の現在 未来予想図を描こう：なぜ、教職課程を履修するのか</p> <p>第2回：教育とは何か</p> <p>第3回：教員養成の歴史と現在</p> <p>第4回：教師の資質能力と職務内容</p> <p>第5回：教師・学校をめぐる諸問題（①校則と生徒指導）</p> <p>第6回：グループワーク（目標：教師としての視点に立ちつつ、児童生徒の権利に配慮しながら現代の生徒指導について意見を交換し考察する）</p> <p>第7回：教師・学校をめぐる諸問題（②いじめ問題を考える）</p>			

第8回：教師・学校をめぐる諸問題（③多様性を支える学級づくり）

第9回：学校における連携と協働—チーム学校運営（映像資料から教育について学ぶ）

第10回：教師と学校文化

第11回：教師・学校をめぐる諸問題（④メディアと子ども）

第12回：学力とは何か

第13回：教師・学校をめぐる諸問題（⑤教師の多忙化とメンタルヘルス）

第14回：グループワーク（目標：ICTが教育や子どもに与える影響について、事前に調べたことや考えたことについて意見を交換し、考察を深める）

第15回：まとめ：これまでの授業を振り返る

定期試験

テキスト

とくに使用しないが、講義でレジュメ・資料を配布する。

参考書・参考資料等

①秋田喜代美他『新しい時代の教職入門』有斐閣アルマ、②山田浩之『漫画が語る教師像』昭和堂、③汐見稔幸編『子どもにかかわる仕事』岩波ジュニア新書、④内藤朝雄『いじめの構造』講談社現代新書、⑤柿沼昌芳他『教師という<幻想>』批評社、⑥神谷拓『運動部活動の教育学入門 歴史とのダイアログ』大修館書店、⑦内田良『教育という病』光文社新書、⑧広田照幸『ヒューマンティーズ教育学』岩波書店、⑨鈴木翔『教室内（スクール）カースト』光文社新書、⑩志水宏吉『「つながり格差」が学力格差を生む』亜紀書房

学生に対する評価

小レポート（30%） 到達目標3)

期末レポートまたは試験（60%） 到達目標1) 2) 3)

授業への参加・意欲（10%） 到達目標4)

授業科目名： 教育社会学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 藤井宣彰
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>この科目は、教育に関する社会的、制度的事項を中心に学修する。学校や子ども、教師を巡る近年の社会的状況を理解し、その変化が学校教育に与える影響を理解する。それに対応するための教育政策や学校の取組について、事例を通じて理解する。</p> <p>また、学校や教育行政制度と改革動向について基本的な知識を身につけること、学校教育の役割について理解すること、教員の服務について理解することを目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>近年、我が国では様々な教育改革が進められている。そのなかには、教育制度の根幹に触れるものもある。その動向を理解するため、教育制度の基本原理や体系、教育行財政、学校組織等に関わる基本的な知識を学び、今日的な諸問題について考察する。</p> <p>教員として勤務し、生徒を指導する上で必要な教育法規や教育制度に関する事項を学修する。時に児童生徒の人命にも関わるほどの様々な教育課題が山積する現代において、一人の教員のみで対応することには限度がある。従来、児童生徒の指導は担当教員や学校がすべて担うものとされてきたが、これからの教員には学校内外での連携・協働が求められている。</p> <p>教員として勤務し、地域と連携しながら生徒を指導する上で必要な教育法規や教育制度、学校経営に関する事項を学修する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：現代教育の諸問題</p> <p>第2回：社会における学校の役割</p> <p>第3回：公教育制度の原理と体系</p> <p>第4回：学校制度</p> <p>第5回：教育法規</p> <p>第6回：教育行政</p> <p>第7回：教育委員会制度改正</p> <p>第8回：教職員の服務</p> <p>第9回：教師のライフステージ研修・職能発達一</p> <p>第10回：児童生徒の管理－問題行動と懲戒・体罰－</p> <p>第11回：開かれた学校づくり</p> <p>第12回：新たな教育課題とチーム学校</p>			

第13回：学校安全に関する取組

第14回：就学前教育制度

第15回：教育改革の動向と課題

定期試験

テキスト

授業中に適宜資料を配付する。

参考書・参考資料等

『教育六法』（出版社は問わない）

学生に対する評価

①定期試験90%②提出物等10%を目安として総合的に評価する。

授業科目名： 教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 向居暁 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>この科目では、教員免許取得を希望する学生を対象にして、児童・生徒の発達や学習過程など教育活動に関わる心理学について、基本的な内容を講述する。将来、教育現場に立つときに必要となる教育心理学の基礎知識を身につけること、また、そのような知識をどのようにして教育活動に生かすことができるかを常に考える態度を身につけることを目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>授業では、児童・生徒の発達に応じて、性格、知的能力（記憶、思考、学習）、やる気、学習指導と評価など教育活動に関わる心理学についての基本的知識の獲得を目指す。また、特別な学習支援が必要な児童・生徒の学習過程についても、その特徴などを学ぶ。この授業の目標は「心理学による教育方法の充実」である。授業内容を理解すれば、今まで学校で学んできた授業やテストの方法、また先生のなにげない一言などにいろいろな意味が隠されていたことに気づくであろう。</p> <p>この授業では、基礎的な学習内容の定着を図るために、小テストを実施する。また、授業内容への意識づけのために事前課題、授業内容の振り返りのためにまとめの課題と感想・質問課題を実施し、評価の対象とする。加えて、授業資料の配布（事前にワークシート、事後に授業スライド）、小テスト、および、課題の提出はすべてMicrosoftチームスを利用して行う。授業は復習等のために録画し、チームスで共有する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業ガイダンス —教育心理学とは—</p> <p>第2回：児童・生徒の性格の理解 —検査法と発達の要因—</p> <p>第3回：児童・生徒の知的能力の理解（1）—知能の発達と知能検査の利用—</p> <p>第4回：児童・生徒の知的能力の理解（2）—創造性と情動知能— [小テスト]</p> <p>第5回：学習の基礎 —褒めることや叱ること、学習の転移—</p> <p>第6回：学習の動機づけ（1）—内発的動機づけと外発的動機づけ—</p> <p>第7回：学習の動機づけ（2）—自己効力感と原因帰属— [小テスト]</p> <p>第8回：学習指導法の基礎（1）—学習指導法の種類と特徴—</p> <p>第9回：学習指導法の基礎（2）—学習の個人差と適性処遇交互作用—</p> <p>第10回：教育評価（1）—評価基準による分類— [小テスト]</p> <p>第11回：教育評価（2）—評価時期による分類—</p>			

第12回：家庭学習の指導 —発達段階に応じた指導—

第13回：学業不振の理解と学習支援 [小テスト]

第14回：教師の適性と教室における人間関係

第15回：まとめ —教育心理学を有効に利用するために—

定期試験

テキスト

配布資料、パワーポイントスライド、配布されたワークシートをもとに授業を行う。

参考書・参考資料等

改訂版 教育心理学入門（豊田弘司 編著、小林出版）

改訂版 やさしい教育心理学（鎌原雅彦・竹綱誠一郎 著、有斐閣）

よくわかる学校教育心理学（森敏昭・青木多寿子・淵上克義 編、ミネルヴァ書房）

よくわかる教育心理学（中澤潤 編、ミネルヴァ書房）

絶対に役立つ教育心理学（藤田哲也 編著、ミネルヴァ書房）

また、各回の内容に合わせて適宜紹介する。

学生に対する評価

期末試験50%、小テスト12%（小テスト4回：各3%）、授業課題（事前課題・まとめの課題・感想・質問課題）38%の割合で評価する。

授業科目名： 特別支援教育	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 平田香奈子 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>教育や発達援助において、特別の支援を必要とする幼児・児童及び生徒に対する理解をテーマとし、以下のことを到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) インクルーシブ教育を含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解している。 2) 発達障害や軽度知的障害を始めとする、特別の支援を必要とする幼児・児童及び生徒の心身の発達・心理的特性および学習の過程を理解している。 3) 視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある生徒の学習上または生活上の困難について基礎的な知識を身に付けている。 4) 発達障害や知的障害を始めとする特別の支援を必要とする幼児・児童・生徒に対する支援の方法について例示することができる。 5) 通級による指導及び自立活動の教育課程上の位置付けと内容を理解している。 6) 特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画および個別の教育支援計画の必要性を理解している。 7) 母語や貧困、生育環境等により、教育や発達援助における特別なニーズのある幼児・児童・生徒の学習上または生活上の困難や組織的な対応の必要性を理解している。 			
<p>授業の概要</p> <p>通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：特別な教育的ニーズと学校</p> <p style="padding-left: 2em;">インクルーシブな教育を含む特別支援教育の制度について、通級による指導・特別支援学級および特別支援学校の役割、自立活動等教育課程上の特色について学ぶ。</p> <p>第2回：特別支援教育に関する制度の理念や仕組み</p> <p style="padding-left: 2em;">特別支援教育に関する教育課程を踏まえ、個別の支援計画の作成を含む制度やその実施に携わる関係機関、専門職について学ぶ。</p> <p>第3回：知的障害を有する生徒の心身の発達と学習特性および合理的配慮</p>			

知的障害を有する生徒の学習上および生活上の困難やその特性を理解し、その支援の方法および個別の指導計画・個別の教育支援計画の作成について学ぶ。

第4回：発達障害を有する生徒の心身の発達と学習特性および合理的配慮

発達障害を有する生徒の学習上および生活上の困難やその特性を理解し、その支援の方法および個別の指導計画・個別の教育支援計画の作成について学ぶ。

第5回：身体障害を有する生徒の心身の発達と学習特性および合理的配慮

身体障害を有する生徒の学習上および生活上の困難やその特性を理解し、その支援の方法を学ぶ。特に、自立活動の内容や発達援助に関係する諸機関との連携を踏まえ、個別の指導計画・個別の教育支援計画の作成について学ぶ。

第6回：生活環境に関する教育的ニーズを有する生徒への支援の工夫と合理的配慮

外国にルーツのある生徒や生活上の理由で特別な支援を要する生徒への教育について、支援体制や教育現場の実態について学ぶ。

第7回：性的マイノリティの生徒と合理的配慮

性的マイノリティに関連した教育的ニーズを有する生徒の学校生活について、事例に基づき合理的配慮について考える。

第8回：個別最適化された教育の実現と課題

生徒が抱える様々な教育的ニーズと合理的配慮に基づく教育的支援についてまとめる。

テキスト

指定なし

参考書・参考資料等

文部科学省（2018）特別支援学校教育要領・学習指導要領 総則編

横道誠・青山誠（2024）ニューロマイノリティ-発達障害の子どもたちを内側から理解する

学生に対する評価

到達目標のうち、1) 3) 6) 7) についてはリアクションシート（40%）、3) 4) については、小テスト（30%）2) についてはレポート（30%）で評価する。

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 今井航 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本講義では、学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程がテーマとなる。その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解することを到達目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>第1に、受講学生自らが初等・中等教育段階で経験してきた教育課程の諸特徴を取り上げ、これにより教育課程への興味・関心を高める。第2に、学習指導要領の歴史的変遷を認識すると同時に、その改訂の最新の動向も踏まえながら、教育課程が社会において果たしてきた／果たしている役割や機能を学習する。第4に、教育課程の構造及び編成原理を学習する。第5に、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を考える。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：教育課程は誰が／どこが編成するのか</p> <p>第2回：学校段階別にみる場合の違い（1） 目的とか目標</p> <p>第3回：学校段階別にみる場合の違い（2） 教育内容とか授業時間数</p> <p>第4回：戦前の教科課程とか学科課程について</p> <p>第5回：日本における領域論の展開</p> <p>第6回：学習指導要領の改訂の変遷および主な改訂内容（1） 昭和の各改訂</p> <p>第7回：学習指導要領の改訂の変遷および主な改訂内容（2） 平成の各改訂</p> <p>第8回：学習指導要領の改訂の最新の動向</p> <p>第9回：学習指導要領の性格および位置づけ</p> <p>第10回：幼稚園の教育課程や、特別な支援を要する児童・生徒の教育課程 / 中間試験</p> <p>第11回：教育課程の編成原理（1） シーケンスとスコープ</p> <p>第12回：教育課程の編成原理（2） 教科中心か経験中心か</p> <p>第13回：カリキュラムという場合のもつ意味</p> <p>第14回：カリキュラム・マネジメント</p> <p>第15回：カリキュラム評価</p> <p>定期試験</p> <p>テキスト</p> <p>（1）以下に示す学習指導要領の解説総則編</p>			

- ・『高等学校学習指導要領解説 総則編』（平成31年1月 文部科学省）
- ・『中学校学習指導要領解説 総則編』（平成29年7月 文部科学省）

(2) 以下の図書

- ・田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵『新しい時代の教育課程（第5版）』有斐閣、2023年

参考書・参考資料等

- ・『高等学校学習指導要領』（平成30年3月告示 文部科学省）
- ・『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示 文部科学省）
- ・『小学校学習指導要領解説 総則編』（平成30年2月 東洋館出版社）

学生に対する評価

- ・試験結果（100パーセント）

中間試験40点、学期末試験60点の計100点とする。授業で扱った内容に基づいて到達目標及びテーマを踏まえながら作成された各問に、正確に答えられるかどうか。語句による記述式や記号選択式の問題により問う。

なお、以下の点についても評価の対象とする。

- ・受講態度

授業科目名： 総合的な学習の時間 の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 尾川満宏 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・総合的な学習（探究）の時間の指導法		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>総合的な学習の時間において、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指すという意義を理解する。また、各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、指導計画の作成および具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付ける。</p>			
授業の概要			
<p>前半は講義を中心とし、総合的な学習の時間の目標と内容、理論、教育上の意義、教育課程上の位置づけ、教科学習との関連などについて学ぶ。後半はグループワークと学習指導計画の構想を中心として授業を進める。グループワークでは、まず自身の中学生、高校生時代の総合的な学習の時間を振り返りながら事例の検討を行う。その後、振り返りにもとづいてテーマを設定し、学習指導計画の作成・検討を行う。</p>			
授業計画			
第1回：総合的な学習の時間の目標と内容①：イントロダクション			
第2回：総合的な学習の時間の目標と内容②：学習指導要領を中心に			
第3回：総合的な学習の時間の意義と役割①：「資質・能力」			
第4回：総合的な学習の時間の意義と役割②：目標の設定			
第5回：学習指導要領における総合的な学習の時間の位置づけ①：年間指導計画			
第6回：学習指導要領における総合的な学習の時間の位置づけ②：探究課題の設定			
第7回：各教科・教科外活動との関連①：カリキュラムマネジメントの視点から			
第8回：各教科・教科外活動との関連②：主体的・対話的で深い学びの視点から			
第9回：総合的な学習の時間の指導・評価①：指導方法			
第10回：総合的な学習の時間の指導・評価②：評価方法			
第11回：指導計画の作成①：計画構想			
第12回：指導計画の作成②：草案作成			
第13回：指導計画の検討①：改善指針の明確化			
第14回：指導計画の検討②：改善案の作成			

第15回：指導計画の完成・提出

テキスト

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編』。

参考書・参考資料等

授業時配布資料

学生に対する評価

毎回のコメントシート50%、指導計画50%

授業科目名： 特別活動論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山田浩之 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・特別活動の指導法		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>特別活動は学校内における生徒の活動を支える重要な役割を持っているが、その理論や位置づけは曖昧である。本講義では、まず、特別活動の理論と歴史ばかりでなく、近年の教育問題や教育改革を背景として、その意義について検討する。それとともに、具体的な特別活動の事例を用いながら、学生自身によってその運営と実施について検討し、報告・実践を行う。これらの学習により、特別活動を学校での教育活動の中に位置づけ、学生自身が実際に特別活動の企画、運営を行う基礎を養うことが本講義の目標である。</p>			
授業の概要			
<p>前半は講義を中心とし、特別活動の歴史、戦後の役割の変化と理論などについて学ぶ。後半は、グループワークを中心として授業を進める。グループワークでは、まず自身の中学生、高校生時代の特別活動を振り返る。その後、振り返りにもとづいてテーマを設定し、教材研究、学習指導案の作成を行い、その上で特別活動の実習を行う。</p>			
授業計画			
第1回：イントロダクション－特別活動とは何か			
第2回：特別活動の歴史			
第3回：学習指導要領の変遷と教育問題			
第4回：戦後における特別活動の制度化			
第5回：教育課程上の位置づけと各教科との関連			
第6回：現代における特別活動の意義			
第7回：特別活動と家庭・地域			
第8回：グループワーク1－指導計画の作成			
第9回：特別活動の内容と指導法1－学級活動・ホームルーム活動			
第10回：特別活動の内容と指導法2－児童会・生徒会活動			
第11回：学校行事の内容と指導法1－儀式的行事			
第12回：学校行事の内容と指導法2－健康安全・体育的行事			
第13回：学校行事の内容と指導法3－文化的行事			
第14回：グループワーク2－指導計画の再作成			
第15回：まとめ－これからの特別活動			

テキスト

山田浩之編『特別活動論』（改訂版）協同出版 2022年

文部科学省『高等学校学習指導要領解説特別活動編』

文部科学省『中学校学習指導要領解説特別活動編』

参考書・参考資料等

特になし（教科書以外に必要な資料などは適宜配布する。）

学生に対する評価

授業中に行う小テスト（30%）、グループワークでの報告内容と質疑（30%）、最終レポート（40%）により評価する。

授業科目名： 教育方法学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 深澤悦子																
			担当形態：単独																
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目																		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の方法及び技術																		
授業のテーマ及び到達目標 教育方法学に関する学術的動向と歴史をふまえ、授業方法や指導技術に関する知見を深め、教師に必要な、実践的知識や技能を習得する。																			
授業の概要 <table border="0"> <tr> <td>1. 教育方法学とは</td> <td>9. 授業のタクト</td> </tr> <tr> <td>2. 教育方法の歴史</td> <td>10. 授業構想と指導案</td> </tr> <tr> <td>3. 子ども理解と教えること</td> <td>11. 教材開発</td> </tr> <tr> <td>4. 学力問題と指導のあり方</td> <td>12. 実践的な指導力</td> </tr> <tr> <td>5. 確かな学力の形成</td> <td>13. 評価の方法</td> </tr> <tr> <td>6. メディアリテラシー</td> <td>14. 授業研究と教師の専門性</td> </tr> <tr> <td>7. コンピュータを活用した授業</td> <td>15. 全体のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 学習指導と学習形態</td> <td></td> </tr> </table>				1. 教育方法学とは	9. 授業のタクト	2. 教育方法の歴史	10. 授業構想と指導案	3. 子ども理解と教えること	11. 教材開発	4. 学力問題と指導のあり方	12. 実践的な指導力	5. 確かな学力の形成	13. 評価の方法	6. メディアリテラシー	14. 授業研究と教師の専門性	7. コンピュータを活用した授業	15. 全体のまとめ	8. 学習指導と学習形態	
1. 教育方法学とは	9. 授業のタクト																		
2. 教育方法の歴史	10. 授業構想と指導案																		
3. 子ども理解と教えること	11. 教材開発																		
4. 学力問題と指導のあり方	12. 実践的な指導力																		
5. 確かな学力の形成	13. 評価の方法																		
6. メディアリテラシー	14. 授業研究と教師の専門性																		
7. コンピュータを活用した授業	15. 全体のまとめ																		
8. 学習指導と学習形態																			
授業計画 第1回：教育方法学とは <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション 第2回：子ども理解と教えるということ <ul style="list-style-type: none"> ・子ども理解の視点をさぐる ・まなざしの教育的意義について 第3回：教育方法の歴史（1） <ul style="list-style-type: none"> ・コメニウス、ルソーにおける「教える」ことの技術 第4回：教育方法の歴史（2） <ul style="list-style-type: none"> ・ペスタロッチ、ディースターヴューク、デューイにおける「教える」ことの技術 第5回：学力の形成 <ul style="list-style-type: none"> ・確かな学力を形成していくために 第6回：学習指導と学習形態 <ul style="list-style-type: none"> ・学習形態 ・「指さし」の教授学 第7回：授業構想の理論と指導案																			

<ul style="list-style-type: none"> ・授業を構想するメカニズムについて ・指導案を構想すること <p>第8回：教育的タクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育的タクトとは ・授業展開におけるタクト <p>第9回：教材開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材解釈をとおして，教材，教具の工夫を実践的に学ぶ <p>第10回：実践的な指導力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・媒介的指導について ・日本のすぐれた教育実践にふれ，授業の構成，教師の働きかけなどを学ぶ <p>第11回：評価の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価の種類，方法 <p>第12回：コンピュータを活用した授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業VTR等に学びながら，コンピュータを活用した授業実践について説明する <p>第13回：授業研究と教師の専門性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一枚の指導案を構想し，模擬授業をとおして実践的力量を培う <p>第14回：授業研究と教師の専門性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一枚の指導案を構想し，模擬授業をとおして実践的力量を培う <p>第15回：全体のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとめ <p>定期試験</p>
<p>テキスト</p> <p>特になし</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>文部科学省『学習指導要領』</p> <p>日本教育方法学会編『確かな学力と指導法の探究』 図書文化</p> <p>吉本 均『教室の人間学』 明治図書</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>提出物・ファイル作成 40%，テスト 60%</p>

授業科目名： 情報通信技術の活用	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 松田充 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>情報通信技術の発展は近年目覚ましいものがある。その発展は、これまでになかった程度で教育のあり方に影響を与えるようになってきている。この授業では、情報通信技術の発展を背景に、それが教育に与える影響について理解した(知識・技能の観点)うえで、情報通信技術を教育の中で有効に活用していくための方法を表現できる(思考・判断・表現の観点)ことを目標とする。また本授業が、情報通信技術に関わる授業であることを踏まえ、情報通信技術を活用しながら、授業での議論に積極的に参加できる(主体性・協働性の観点)ことも目標としている。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>授業の前半部では、情報通信技術の発展とその教育の活用方法の歴史や現状、理論などを学ぶ。そのうえで、授業の後半部では、実際の活用能力を高めるため、情報通信技術を使用し、指導案や学習方法の開発することを学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：現代社会における情報通信技術の発展と教育の転換 生成AIをはじめとする現代の情報通信技術の発展について概観するとともに、それが教育に与える影響について理解する。</p> <p>第2回：教育における情報通信技術の活用の歴史的発展 紙、鉛筆、テレビ、インターネットなど、これまで様々な技術が教育の中で活用されてきた。その歴史的な発展を概観し、今後の展開可能性について考察する。</p> <p>第3回：情報通信技術の活用による「主体的・対話的で深い学び」 「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、情報通信技術は欠かせないものである。具体的な事例を挙げていきながら、どのような活用方法が「主体的・対話的で深い学び」を具体化させるのかについて考察する。</p> <p>第4回：個別最適化された学びと協働的な学びを実現する情報通信技術の活用 個別最適化された学び、協働的な学びのいずれにとっても、また両者の結合のためにも、情報通信技術の活用が欠かせない。具体的な事例を挙げていきながら、どのような活用方法が個別最適化された学びと協働的な学びを具体化させるのかについて考察する。</p> <p>第5回：情報活用能力(情報モラル)の育成方法とその課題 情報通信技術の発展とともに、その使用者に求められる能力が変化してきている。情報モラルやデジ</p>			

タル・シティズンシップの考え方を理解するとともに、その育成のための具体的な方法について考える。

第6回：教科種・学校種・地域を横断する学びを実現する情報通信技術

情報通信技術は、時間・空間を超えて学びを展開させていく可能性を有している。その具体例を挙げていきながら、教科種・学校種・地域を横断する学びを具体化させる方法について考察する。

第7回：情報通信技術での学びを支えるデジタルコンテンツの開発

NHK for Schoolをはじめとして、情報通信技術の発展とともに、それを支えるためのコンテンツの開発が進められている。そのコンテンツの活用方法について学び、具体的な実践を構想していく。

第8回：情報通信技術による学校の変化

情報通信技術の発展は、授業などの学習場面にだけではなく、校務のあり方や教員研修のあり方にも変化を与えている。ICT支援員などの外部人材を活用しながら進められる校務の情報化など、授業以外の場面での情報通信技術の活用について考えていく。

テキスト

なし

参考書・参考資料等

岩崎 千晶, 田中 俊也 他編 学びを育む 教育の方法・技術とICT活用：教育工学と教育心理学のコラボレーション、2023、北大路書房

学生に対する評価

情報通信技術が教育に与える影響についての理解：提出物30%

情報通信技術を活用した授業への参加：授業での議論への参加割合10%

情報通信技術を活用した教育の方法についての実施と説明：レポート60%

授業科目名： 生徒・進路指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 坪田雄二、児玉真樹子
			担当形態：オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法 		
授業のテーマ及び到達目標 <p>生徒指導は個性に応じた自己指導力の育成を目指す教育活動であり、進路指導は将来における自己実現を目指す教育活動であることが理解できること。いずれの活動も、学校で実施されるさまざまな教育活動と関連させて実施し、学校内はもとより外部機関との連携も取りながら組織的に実施する必要があることが理解できること。</p>			
授業の概要 <p>生徒指導の意義や原理、指導の基礎となる生徒理解の方法とその留意点、学級を望ましい教育集団にするために必要な知識、課題を抱える子供たちへの対応、進路指導・キャリア教育の意義や原理、進路指導の在り方や考え方を解説する。</p>			
授業計画 <p>第1回：オリエンテーション ピアティーチングの解説 生徒指導の概念（担当：坪田雄二） 第2回：生徒指導の目標と機能、生徒指導の分類、生徒指導の共通原理（担当：坪田雄二） 第3回：教育課程の活動と生徒指導との関係（担当：坪田雄二） 第4回：生徒理解とその方法（担当：坪田雄二） 第5回：生徒理解のゆがみにつながる認知的メカニズム（担当：坪田雄二） 第6回：生徒指導における組織的対応の在り方（担当：坪田雄二） 第7回：心理学的知見に基づいた学級経営（集団規範、勢力）（担当：坪田雄二） 第8回：心理学的知見に基づいた学級経営（リーダーシップ）（担当：坪田雄二） 第9回：ピアティーチング：学校における問題行動（非行）（担当：坪田雄二） 第10回：ピアティーチング：学校における問題行動（いじめ）（担当：坪田雄二） 第11回：ピアティーチング：学校における問題行動（不登校）（担当：坪田雄二） 第12回：ピアティーチングの振り返り、インターネット上の問題、虐待等の学校をめぐる問題行動（担当：坪田雄二） 第13回：進路指導・キャリア教育の意義や原理（担当：児玉真樹子） 第14回：進路指導・キャリア教育の考え方と指導の在り方（ガイダンスとしての指導）（担当：児玉真樹子） 第15回：進路指導・キャリア教育上の課題への対応（カウンセリングとしての指導）（担当：児玉真樹子）</p>			

定期試験

テキスト

森田愛子（編著） 2014 生徒指導・進路指導論 教師教育講座第10巻 協同出版

参考書・参考資料等

文部科学省 2022 生徒指導提要改訂版

学生に対する評価

1～12回の内容に関しては、ピアティーチングの内容（20%）、課題レポート（10%）、定期試験（50%）で、13～15回の内容に関しては、課題レポート（20%）で評価を行う。

授業科目名： 教育相談	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 森田裕司 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>教育相談をテーマとし、以下のことを到達目標とする。</p> <p>1) 学校における教育相談の意義と理論を理解している。</p> <p>2) 教育相談を進める際に必要な基礎的知識を理解するとともに、カウンセリングの基礎的な姿勢や技法を身に付けている。</p> <p>3) 教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携の必要性を理解するとともに、さまざまな事例に応じた対応方法を身に付けている。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>教育相談は、児童生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。児童生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付ける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：教育相談の意義と理論</p> <p>第2回：心理学の基礎理論や概念</p> <p>第3回：カウンセリングマインドの基礎理論</p> <p>第4回：ロールプレイ 2つの態度</p> <p>第5回：紙上応答訓練－紙に書かれた相談への応答－</p> <p>第6回：聴取応答訓練－音声で語られた相談への応答－</p> <p>第7回：問題への対応 問題の早期発見 問題発生予防</p> <p>第8回：教育相談の組織作りと運営の進め方 校内連携</p> <p>第9回：登校への刺激はある方がよいか－不登校の事例－</p> <p>第10回：いじめ発生のメカニズムと対応</p> <p>第11回：虐待被害の影響と対応</p> <p>第12回：危機対応と描画によるアプローチ</p> <p>第13回：保護者・専門機関との連携の工夫</p> <p>第14回：教師のメンタルヘルスを維持する方法</p>			

第15回：総括のロールプレイ「乗り越えた体験」
定期試験
テキスト 『心理学ナビゲータVer.2』神田義浩ほか，北大路書房，2011年 他に参考となる資料冊子を配布する。
参考書・参考資料等 『生徒指導提要』（令和4年12月 文部科学省）
学生に対する評価 定期試験（60%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（20%）、授業への取り組み姿勢（20%）

シラバス：教職実践演習

シラバス：教職実践演習 (中・高)	単位数：2単位	担当教員名：向居暁、内田智久			
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	○
受講者数	20人				
教員の連携・協力体制 教職担当教員、および、長期にわたって教育現場を経験した講師（非常勤講師）と協働してすべての授業を実施する。 第12回・13回の模擬授業では、現職教員等を招聘し教科、および、道德教育に関する指導を仰ぐ。					
授業のテーマ及び到達目標 当演習を履修する者の教科に関する科目及び教職に関する科目の履修状況をふまえ、教員として最小限必要な資質能力を習得することが目標である。 【知識・技能】 <ul style="list-style-type: none"> ・教科・教育課程に関する基礎的知識・技能を身に付ける。 ・教職の意義や教員としての責務、教育史や思想に関する理論、学校の社会的・制度的・経営的な理解等の学校教育について理解できる。 【思考力・判断力・表現力】 <ul style="list-style-type: none"> ・心理・発達的な子どもの理解、学級経営等の子どもについての理解を身に付ける。 ・教材分析、授業構想力、授業展開力、板書や発問等の表現技術等の教育実践力を身に付ける。 ・子どもの発達段階に応じた適切なコミュニケーションが行える。 【主体性・協働性】 <ul style="list-style-type: none"> ・自己の課題を認識し、学び続ける姿勢を持つ。 ・他者との連携、協力、他者の意見の受容等、他者と協力できる。 					
授業の概要 教職課程の個々の科目の履修により習得した専門的な知識・技能をもとに、教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持って、学級や教科を担当しつつ、教科指導、生徒指導等の職務を著しい支障が生じることなく実践できる資質能力を習得させる。そのために、役割演技（ロールプレイング）、事例研究、現地調査（フィールドワーク）、模擬授業などを取り入れる。また、教員勤務経験者を講師とした演習も行う。					

授業計画

- 第1回：授業ガイダンス、履修カルテに基づいたこれまでの学修の振り返り
 第2回：教職の意義や教員の役割（1）—教師の職務内容と法的位置づけ—
 第3回：教職の意義や教員の役割（2）—生徒指導の重要性—
 第4回：教職の意義や教員の役割（3）—学習指導要領の理解—
 第5回：社会性や対人関係能力—ソーシャルスキルトレーニング—
 第6回：生徒理解（1）—生徒・保護者対応ロールプレイ①—
 第7回：生徒理解（2）—生徒・保護者対応ロールプレイ②—
 第8回：学級経営（1）—学級経営診断—
 第9回：学級経営（2）—構成的グループエンカウンター—
 第10回：学校現場の見学（フィールドワーク）（1）—教科—
 第11回：学校現場の見学（フィールドワーク）（2）—道德教育—
 第12回：模擬授業（1）—教科（ICTを効果的に活用）—
 第13回：模擬授業（2）—道德教育（ICTを効果的に活用）—
 第14回：教科等の指導力
 第15回：まとめ—教師にとって大切なこと—

テキスト

配布資料等

参考書・参考資料等

- 中学校学習指導要領（文部科学省、2017）
 高等学校学習指導要領（文部科学省、2018）
 中学校学習指導要領解説総則編（文部科学省、2017）
 高等学校学習指導要領解説総則編（文部科学省、2018）
 生徒指導提要（文部科学省、2022）
 広島県教育資料（広島県教育委員会）
 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（文部科学省国立教育政策研究所
 令和2年・令和3年）

学生に対する評価

授業レポートや演習等の作成物（40%）、授業参観、模擬授業や発表活動の取組（40%）、期末レポート（20%）をもとに総合的に判断する。

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
 ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。